

基盤環境委員会

行政視察の報告

7月6日～8日の3日間、次の調査研究項目について視察を実施しました。

- 犬山市交通規制の取り組みについて（犬山北のまちづくり推進協議会）
- アセットマネジメントについて（福岡県福岡市）
- 橋梁長寿命化修繕計画について（熊本県熊本市）

交通規制の取り組み 犬山北のまちづくり 推進協議会

◎ 取り組みの状況

協議会は道路拡幅推進のために行政主導で発足。他市を視察し研究する中で、犬山城をシンボルとする趣のあるまちの景観を保全し後世に引き継ぐなかで活性化を図る必要があるとして、継続的ににぎわい創出活動に取り組む。その手段として、交通規制（歩行者天国）を実施。

◎ 交通規制の効果

国宝犬山城というランドマークだけではなく、安心して歩いて散策できる道づくりによって、城下町としての歴史や風情を感じさせ、まちの魅力創出や賑わいを生み出している。

◎ 交通規制による課題
交通規制は毎年、同意を得て実施しているが、観光客の利便性と住民の日常生活での不自由さという相反する

問題の調整が難しい。

◎ 考察

まちのオーナーは住民であり生活者の目線に立って、将来を見据えたまちづくりの方向性について住民から具体的な提案が上がってくるよう、話し合いのプロセスを多く取るなど急がず合意に向けた調整を図る必要がある。



犬山市本町通りの様子

アセットマネジメント 基本方針と実行計画 福岡市

限られた予算の中で、公共施設を効率よく管理し、低コストで維持・更新していくことを「アセットマネジメント」という。

福岡市においては、アセットマネジメント

の考え方や方向性、取り組むべき内容、推進体制など基本的な枠組みを定め、全庁共通認識のもと効果的な推進を図る基本方針を策定。各部署で実行計画を策定し、現在、第2次実行計画により行財政改革プランと連動し実行している。基本方針策定時に、パブリックコメントを実施し、市民に対してもアセットマネジメントの重要性と行政の喫緊の課題である認識を共有している。住民との認識の共有は実行計画を推進する上で重要なプロセスである。



「福岡市」での視察の様子

課題として、長期保全計画の精度向上や、ライフサイクルコスト

の低減に加え、施設の更新時期における施設の複合利用や統廃合も視野に入れた公共施設のあり方、施設配置の適正化の検討が求められている。

橋梁長寿命化修繕計画 熊本市

熊本市橋梁長寿命化修繕計画では、市が管理する全橋梁を対象に、当該橋梁の健全度を数値化し、健全度に応じた計画を作成。

橋梁長寿命化修繕計画の基本的な考え方

- ① 優先順位付による対策実施時期計画の立案
- ② 健全度評価に応じた適切な対策工法の選定
- ③ 継続的な劣化損傷の把握
- ④ 職員を主体とした継続的な日常維持管理の徹底
- ⑤ 技術職員の育成

である。

課題として、橋梁長寿命化修繕を実施したのちに迎える大規模な施設更新を見据えた財

政計画も必要であり、社会資本の多くが地方公共団体により管理されていることに鑑みれば、地方公共団体における計画的な対応が求められる。

◎ 公共施設マネジメント についての考察

公共施設マネジメントについて、福岡・熊本市の取り組みにおいては、主に「保全・営繕」「資産管理・活用」、「施設の統廃合・適正配置」の3つの管理手法が用いられている。今後、本市においては、本市自らの負担能力や地域ごとの人口動態を厳しく見極め、残すべき社会資本の選別等を含む公共施設等総合管理計画の策定を進めることとなるが、計画策定にあたっては、庁内体制の確立、問題意識を高める（共有する）工夫、公共施設白書・カルテの活用、複合化・共用化の推進、長寿命化の推進といった視点が必要である。